

漁獲物の体型から見る 2024 年生まれホンモロコの特徴

寺井章人

1. 目的

多くの関係者の種々の努力により、近年ホンモロコ資源は回復しつつある。その一方で小型化、低肥満度化の傾向が見られ、「今年（2024 年）は特に小さく、痩せている」と漁業者から現場の声も多く聞こえたため、その検証と今後の資源への影響について考察した。

2. 方法

2024 年 12 月に沖曳網により漁獲された 2024 年生まれ（0 歳魚）について、体長、体重を測定し、肥満度（体重(g)／体長(cm)³×1000）を肥満状況の指標とした。年齢査定は鱗の輪紋の乱れを観察することでを行い、結果は過年度のものと比較した。

3. 結果

2024 年生まれの 0 歳魚平均体長は 70.1 mm、平均肥満度 13.0 とともに 2007 年以降（2010 年、2011 年はデータなし）で最も低い値となり（図 1）、漁業者が感じる 2024 年漁獲物の小型、低肥満度の状況を数値で確認することができた。今回の結果の要因の一つとして餌不足が考えられる。また近年はアユやシジミ等においても餌不足に起因すると考えられる低肥満度が問題となっており、餌環境について、今後より詳細な研究を進める必要がある。

調査した 1,485 個体のうち 87.5%にあたる 1,300 個体が冬季に減耗するとされている体長 60 mm 未満または肥満度 14.0 以下（牧 1966）に該当し（図 2）、27.8%が 50%成熟体長とされる 67mm（藤岡 未発表）未満であった（図 3）ことから、翌春までの生残や生残個体の成熟不良による再生産への影響が危惧される。そのため、小型化、低肥満度化が本種の資源に与える影響について引き続き慎重に調査を継続する必要がある。

本研究は水産庁からの委託事業「水産資源調査・評価推進委託事業」の一部として実施した。

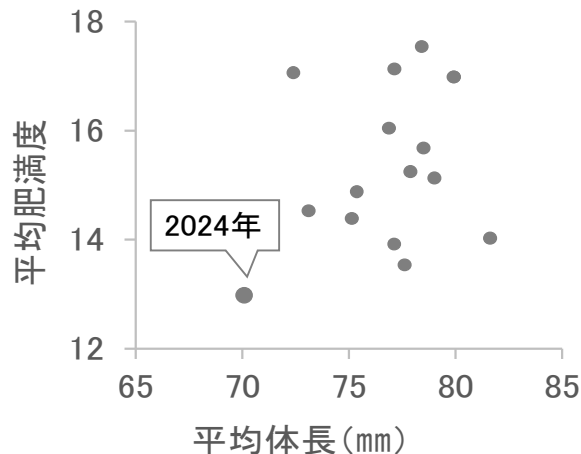


図 1 平均体長と平均肥満度の関係（年別）

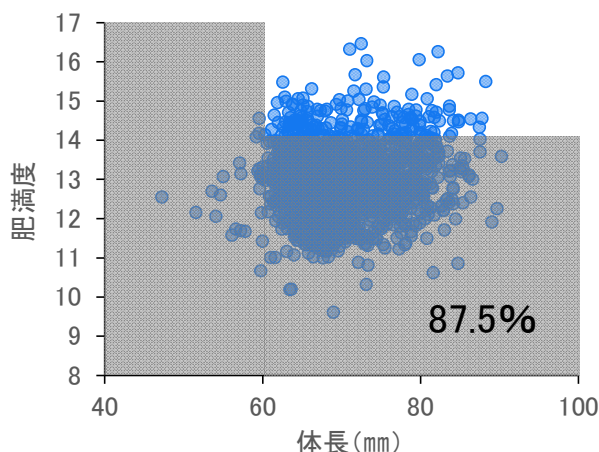


図 2 体長－肥満度散布図（2024 年生まれ）

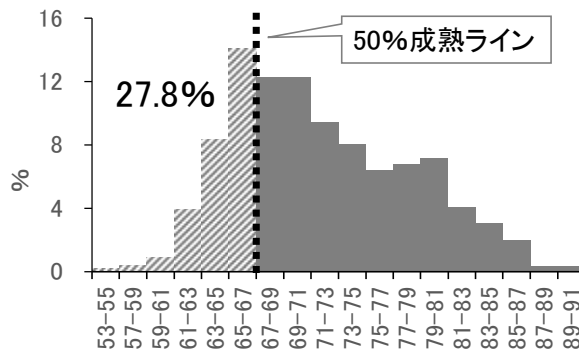


図 3 体長ヒストグラム（2024 年生まれ）